

政策 6. 快適な生活（まちづくりの推進）説明概要

■将来人口推計

- ・全国的に人口の減少は避けられない課題となっています。（2010年→2040年で2割減）
- ・三重県や松阪市でも同様に人口減少が推計される状況です。（2010年→2040年：三重県1,854,724人→1,507,656人、松阪市168,017人→136,668人）
- ・平成27年の国勢調査結果を見ると、推計よりも減少の幅が大きく、今後、推計よりも早い人口の減少が予想されます。

■人口が減少するという事は？

- ・人口が減ることに伴う税収減によって、行政サービスの低下などが心配されますが、他に問題になるのが、生活に身近な商業、医療、福祉施設が維持できなくなっていくことです。
- ・商圈として考えると、コンビニを維持するのに必要な人数は3,000人、スーパーを維持するのに必要なのは1万人～3万人といわれています。
- ・松阪市内にコンビニは約50店舗、スーパーは約20店舗あり、市外からの需要もあることから、現状、維持できていますが、維持できずに過剰になると、減っていくことが予想されます。

■コンパクトシティ

- ・施設を維持していくため、人口密度を保つことができるコンパクトシティを全国で考えています。
- ・コンパクトシティとは、「市町村の中心部に居住地や都市機能を集積することによって、市街地の活性化や行政コストの削減を図り、住民の利便性を向上させようとする考え方」（大辞泉）となっており、まだ「考え方」としての意味合いが強いようです。
- ・集積だけすればよいのでしょうか。

■コンパクトシティプラスネットワーク

- ・現在、人が市内に拡散している中、コンパクトシティになるだけではなく、そのコンパクトな市街地と外縁部とをネットワークすることが必要で、取り組んでいく必要があります。
- ・鉄道やバスなどの公共交通が、そのネットワークを担う部分になってきます。
- ・この「コンパクトシティプラスネットワーク」が完成すれば、万事解決でしょうか。

■魅力的なまちづくりを考える

- ・交通とは、移動することが目的なのではなく、その先の目的があって行う行為です。交通だけ発達しても仕方ありません。
- ・魅力的なまちづくりとは、魅力的な目的地（コト）が欠かせません。
- ・色々な視点から魅力的なまちづくりを考えましょう。（例：松阪の強み、苦手なところ、若者の増減とその理由、中心市街地に欠かせない商店街のこと、必要な取組（ソフトとハード）など）
- ・こういった魅力的なまちづくりを考えたいという一つの方向性として、市役所では「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画などを作っています。
- ・それぞれの立場で魅力的な松阪のまちづくりを考えましょう。